世田谷区立小・中学校トイレ改修
仕様調査（パンフレットづくり）

Setagaya-ku Tokyo 2002

＜地域施設としてのトイレへ＞
＜誰でも使える・災害時にも使えるトイレ＞

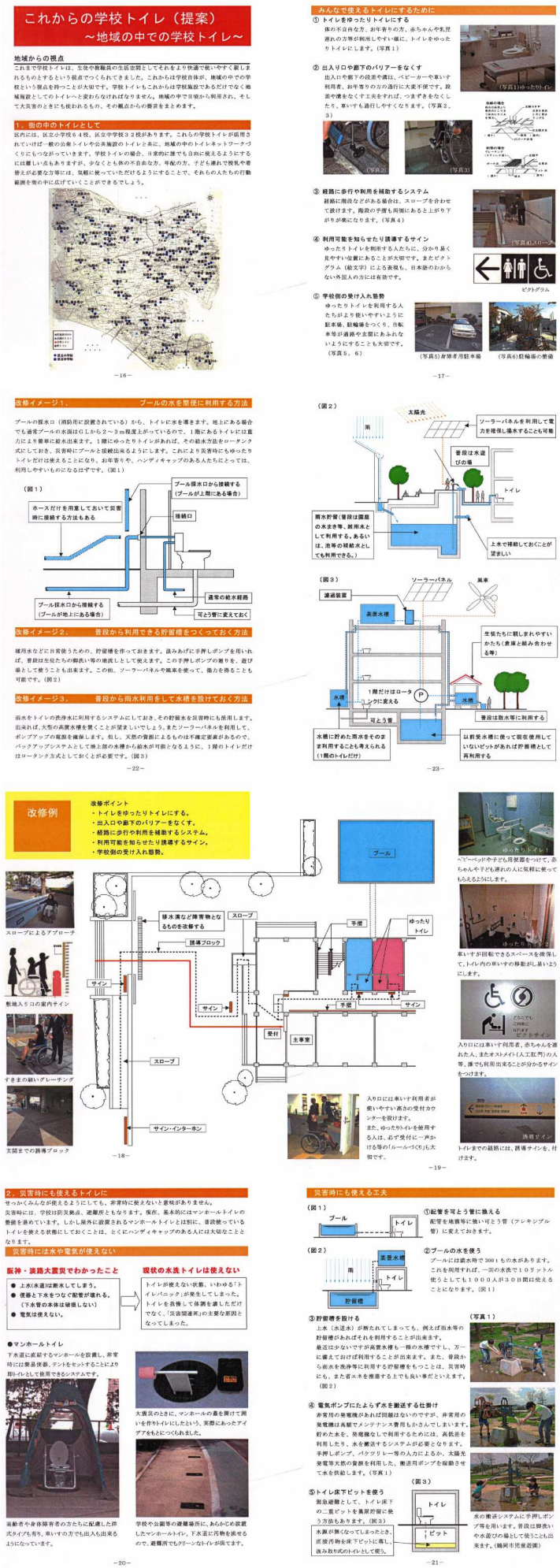
計画敷地：東京都世田谷区

発注　　：世田谷区教育委員会

　これまで学校トイレは、生徒や教職員の生活空間としてそれをより快適で使いやすく親しまれるものとするという視点でつくられてきた。これからは学校自体が、地域の中での学校という視点を持つことが大切である。学校トイレもこれからは学校施設であるだけでなく地域施設としてのトイレへと変わらなければならない。地域の中で日頃から利用され、そして大災害のときにも使われるもの、その観点からの提言をまとめた。

誰でも使える街の中のトイレ

　区内には、区立小学校６４校、区立中学校３２校があり、これらの学校トイレが活用されていけば一般の公衆トイレや公共施設のトイレと共に、地域の中のトイレネットワークづくりにもつながっていく。学校トイレの場合、日常的に誰でも自由に使えるようにするには難しい点もあるが、少なくとも体の不自由な方、年配の方、子ども連れで授乳や着替えが必要な方等には、気軽に使えるようにすることで、それらの人たちの行動範囲を街の中に広げていくことができる。

災害時にも使えるトイレ

　誰でも使えるようにしても、災害などの非常時に使えないと意味が無くなってしまう。
　災害時には、学校は防災拠点、避難所ともなる。現在、基本的にはマンホールトイレの整備を進めている。しかし屋外に設置されるマンホールトイレとは別に、普段使っているトイレを使える状態にしておくことは、とくにハンディキャップのある人には大切なこととなる。